

日本人学習者に対するロシア語形容詞の語形変化の教授法

セルゲイ・トルストグゾフ

広島大学非常勤講師

- 序論
- 学習課題と指導方針
- 教科書『ロシア語文法と練習』における形容詞の演習構成
- 結論

序論

数年前に出版された日本人ロシア語学習者に対する名詞の語形変化の教授法に関する拙稿（トルストグゾフ 1998）は、形容詞の語形変化の教授法の諸問題を扱った続編を書きたいという志で締めくくられていた。本稿においてこの志を実現する時期が来たと思われる。拙著のロシア語教科書『ロシア語文法と練習』（秦野一宏、トルストグゾフ 2012）が日の目を見るまでには時間を要したが、この教科書の執筆過程において、ロシア語の入門基礎段階の学習者たちに対する形容詞の教授法の問題について深く考えさせられた。

最初に、ロシア語の形容詞の基礎を教える場合に遭遇する難点についていくつか言及しておきたい。それらの難点は幾分客観的な原理に基づいている。日本語の形容詞はロシア語の形容詞と大きく異なっているためである。例えば、日本語には形容詞の過去形があるが、ロシア語にはない。また、日本語には連用形があるが、ロシア語にはない。その一方で、日本語の形容詞の文法形式の構成は、語尾を変化させることによって行われる。このことから、日本語も本質的には、ロシア語の最も顕著な特徴の一つである屈折性（флективность）を備えていると見なすことができる。しかしながら、日本語は、動詞が複雑な語形変化体系を有する一方で、名詞は変化しないことを指摘する必要がある。このことによって、日本語を母語とする学習者の初期段階に形容詞を教えることが難しくなる。なぜなら、学習者たちは、性、数、格に関して形容詞を名詞と一致させることに慣れていないからである。

日本語の諸特徴は、日本語を母語とする外国人学習者に対する形容詞の指導方針を決定づける。その指導方針はまず、2通りに分かれる。一つは、最初に名詞の語形変化を学習した後に形容詞の語形変化を導入する方針である。もう一つは、名詞と形容詞の語形変化を同時に導入し、個々の語形変化を学ばせる方針である。これら2通りの指導方針のいずれかを選択するために極めて多大な時間を要した。そのため、本稿の完成は当初の予定よりも大幅に遅れることとなった。この研究の過程で得られたいくつかの結論を、読者に紹介できればと思っている。

それと同時に、ロシア語に関する筆者の教育的関心はごく限られた範囲にあることを付け加えておく。筆者の仕事の大半は、通年単位で開講されている週2コマ（90分×2）の第2外国語のロシア語の授業である。この授業は基本的に、話し言葉としてのロシア語の音声と文法の基礎を概観する程度の初級入門クラスである。また、文語を翻訳する技能よりも口語の基礎入門に焦点が置かれている。辞書で確認することができる基本的な形態を使うことを原則として、必須の語彙形式を組み立てることに重点が置かれている。I. ミロスラフスキーの言葉を借りるならば、「意味から形態へ進む «движение идёт от значения к форме»」（Милославский (1987), С.15)

のである。

また、本稿における教授法に関する諸論は、主専攻としてロシア語を重点的に勉強する学生に対してはほとんど試行されていないことを念頭においていただきたい。したがって、本研究での結論は、基本的に、第2外国語としてロシア語を学習する学習者を対象とした授業に関する助言として受け取っていただきたい。

学習課題と指導方針 (Изучаемые проблемы. Методические принципы.)

日本語にはある種の語形変化が存在するが、人称、性、数に応じた語形の変化はない。語同士の一一致は語尾を用いる方法で部分的に実現されるに留まる。また、語尾を用いる方法と共に、助詞を使った方法も用いられる。助詞は、文中において前置詞とは対照的に内容語に後続し、文における内容語の機能を標示するための副次的手段となっている。こういった助詞は、互いに置き換え可能であるので、後続する助詞は語の一部ではないものの、語形変化と同じ機能を有する。語尾ではなく、助詞を添加または交替させるという方法によって意味を変化させるのが日本語における基本的な語形変化である。したがって、概して語形変化と語同士を一致させる方法が、ロシア語と大きく異なっているので、指導の過程で必ず考慮する必要がある。

日本語の形容詞には2つの種類がある:「い」で終わる、「い」形容詞 (предикативные прилагательные) と、「な」で終わる「な」形容詞 (полупредикативные прилагательные) である。「い」形容詞に関してはさらに、語形変化を有する。というのも、この「い」は語の一部であり、過去時制の形式を作るために変化するからである。「い」形容詞に対し、「な」形容詞の大半は、語形が変化しない漢字の結合によって形成され、変化しうる語尾も有していない。「い」で終わる形容詞の過去時制形式は、1つだけである。たとえば、「大きい—大きかった」である。

ここで新たな難題が生じる。即ち、学習者は、ロシア語に存在する大量の形容詞語尾を多大な時間をかけて身体で覚えなければならないという難題である。このための時間は、ロシア語を第2外国語として学習する学生たちにはほとんど皆無である。完璧にすべての語形変化を暗記して覚えるよりも、語尾の一覧表をうまく使えるように訓練をすることの方が必要であり、現実的であるといえる。

おそらく、ロシア語の形容詞の全種類を完全に学習する授業を設けることは不可能であるだろう。したがって、通年開講の授業の枠組みで、必須事項として教えるべき範囲に関する問題が生じる。形容詞の基本形と性・数に応じた語形変化は、間違いなく教える必要がある。また同様に、名詞類の活用 (склонение) の基本原理を示すことも必要である。性・数による名詞と形容詞の一致、格に応じた語形変化も必要不可欠な項目である。形容詞の短語尾形も導入する必要がある。故に、教材の量が膨大になる。そのため教材を少しずつ区切って説明していくような、段階的なアプローチが必要となる。

他の品詞を修飾するという形容詞の特徴を考慮すると、形容詞に関するあらゆる情報を教科書の一部分に集約することは難しい。しかしながら、名詞から順に、形容詞と他の品詞に関する教材を段階的に結びつけていけば、可能である。授業をする場合には、形容詞の学習過程をいくつかの段階に分けて学習させるという配慮が必要である。

そこで拙稿では指導方針—それは、形容詞主格形と、それ以外の格 (斜格) を別々に学習するという方針を提案したい。日本で出版されているロシア語の教科書における通常の教え方の枠組みでは、名詞主格形を学習する過程で、形容詞の性と数を学習し、形容詞の斜格の学習は、名詞

の斜格を学習した後に行われる。具体例としては、東京大学、佐藤純一教授の「初歩のロシア語」(佐藤純一 1974) や上智大学、小澤政雄教授の「ロシア語の入門」(小澤政雄 1978) が挙げられる。

上述の教科書をはじめその他大多数の教科書において、形容詞に関する事項は2つの領域に分割されている。一方は、形容詞の性と数、もう一方は、形容詞の格変化についての事項である。

以上は、原則としての大枠である。斜格を学習する節には若干の差異も見受けられる。例えば、「Русский язык для всех (みんなのロシア語)」(Степанова, Ивлева, Трушина 1977) のような基本図書で採用されているように、前置格と与格の節で形容詞と名詞を組み合わせて教える枠組みも存在する。

教科書『ロシア語文法と練習』における形容詞の学習構成

拙著においては、形容詞の学習構成は、最初の段階で名詞および物主代名詞の性に応じた語形変化の基本を学習した後に、形容詞主格形を導入する方針を前提とした。構造が日本語の基本形と非常に類似している、単文から成る呼名詞文 (Это машина. ‘これは車です。’) を学習してしまえば、日本人学習者の単文学習はかなり容易になる。形容詞の修飾 (‘長語尾’) 形は、現在時制形式におけるゼロ動詞の概念や動詞の全形式を学習した後に、初めて導入される。

修飾語は、性・数において物主代名詞と一致するのと同様に、補語とも一致する。したがって、«Это красная машина» ‘これは赤い車です。’ という型の文の後には、«Это моя машина» ‘これは私の車です。’ という変形が続く。これによって、物主代名詞の学習箇所を定着させると同時に、語同士を一致させる原理の一般性や普遍性も示すことができる。この一致の原理は、ロシア語と類似した文法形式が存在せず数や格における語同士の一致を必要としない言語を母語とする学習者に対する演習の際に、非常に重要である。

学習箇所の説明は、語尾の形や、先行する文字と語尾表記の変化との対応関係といった、形式的な特徴に着目して行われている。

形容詞の性・数変化形

語尾		男性	女性	中性	複数
-ый	新しい	но́вый	но́вая	но́вое	но́вые
-ий (б, в, д, з, л, м, н, п, р, с, т, ф)	青い	си́ний	си́няя	си́нее	си́ние
г, к, х	高い	высо́кий	высо́кая	высо́кое	высо́кие
ж, ч, ш, щ	良い	хоро́ший	хоро́шая	хоро́шее	хоро́шие
-ой (б, в, д, з, л, м, н, п, р, с, т, ф)	若い	молодо́й	молода́я	молодо́е	молоды́е
г, к, х	値の高い	дорого́й	дорога́я	дорого́е	дороги́е
ж, ч, ш, щ	大きい	большо́й	больша́я	большо́е	большы́е

学習に使われる形容詞の一覧には、まず、次に挙げるような性質形容詞 (качественные прилагательные) が含まれている: бе́лый (白い), кра́сный (赤い), чёрный (黒い), зелёный (緑色の), се́рый (灰色の), интере́сный (面白い), плохой (悪い), ма́ленький (小さい), ра́достный (楽しい), за́нятый (忙しい), свобо́дный (暇な), дешёвый (安い),

разный (異なった), большой (大きい), старый (古い)。これらロシア語の性質形容詞の日本語訳には、ほとんどの場合、「い」で終わる形容詞が充てられる。このことによって、日本人学習者はロシア語形容詞を理解するのが楽になる。しかしながら、学習者にとっては、国籍を表す形容詞を覚えることも必要不可欠であると思われる。したがって、японский (日本の), американский (アメリカの), английский (イギリスの), русский (ロシアの) といった形容詞が重要である。この種の形容詞は、実際に学習者によく使われている。

語尾は語尾の前に出る文字によって変わる。そのため格変化の探し方を教える前に語尾の前に出る文字に着目するようという説明が必要である。その文字は三つのグループに分けられる。

後続語尾がよく似た形式に変化する子音の分類

б, в, д, з, л, м, н, п, р, с, т, ф
г, к, х
ж, ч, ш, щ

特に注意を要するのは、男性・女性・中性、および複数名詞と連結する形容詞の用法の解説である。形容詞の男性形は辞書に使われているため、辞書に載っている男性名詞と共に用いる場合に関しては、語形を変化させる必要がない。

белый дом (白い建物)

女性・中性名詞と共に用いる場合には、形容詞だけ変化させる必要がある。

белый → белая машина (白い車)

белый → белое облако (白い雲)

複数形を用いる場合は、名詞の数を変え、さらに、形容詞と名詞の数を一致させるために、形容詞の数までも変化させなければならない。

белый	машина	(白い車・単数)
↓	↓	
белые	машины	(白い車・複数)

外国人学習者にロシア語の形容詞の運用を正しく理解してもらうためには、上述の違いを全て詳しく解説する必要がある。

それに加えて、一覧表を使用する際には、語尾表記と子音との対応関係を軸にして行うことが必要である：語尾の直前の子音は、「-ий」もしくは「-ой」というような語尾と結びつく。特に、「г」・「к」の子音には注意する必要がある。学習者は通常、これらの子音に対しても基本原則が適用されると思ってしまう。

学習箇所を定着させるためには、疑問を表す語彙 «какой» (‘どのような’) を使うことができ

る。疑問文を作るために「какóй」を使う場合にもやはり、数・性において名詞と形容詞を一致させる必要が生じるのである。筆者の聴覚印象では、「какóй」は日本語の「かっこいい」「каккой」（импозáнтный, шика́рный）という形容詞と実によく似ている。学習者たちもこのように、日本語の形容詞とロシア語の形容詞のつながりをうまく捉えられれば、学習項目の演習が容易になるであろう。疑問文を作るための基本原則を学習すれば、修飾語と文の主要成分の一致のさせ方を復習することができ、さらに、質問に対する応答を学習する箇所、既に学習した基本原則を再度定着させることができる。

この場合の基本表現は、：«Какáя это ма́шина?» ‘これはどんな車ですか?’ のように、学習者がすでに知っている構造を基に作る。こうすることによっても、学習箇所の演習が容易になる。（補足であるが、疑問を表す語彙「какóй」を用いた質問に対する応答は、修飾語だけではなく、例えば«Это ма́шина «Хóнда» ‘これはホンダの車です’ のように、対象物の型を表す補語も可能である。）

疑問を表す語彙「какóй」を使った演習によって、修飾語に関する第一の難関を突破することができるだろう。その後は、動詞変化と名詞変化の部門に取り掛かることができる。

両部門はロシア語の品詞の語形変化の原則を理解する上で大きな意義を持つ。したがって、これらの学習は、順を追って段階的に行わなければならない。このことは特に、名詞変化に関わる。ロシア語の名詞変化の原則は、数・格に応じた名詞の語形変化をしない言語を母語とする学習者にとって極めて難しい。

日本語の動詞には、一種の語形変化が存在することを指摘しておく必要がある。日本語の動詞変化は、本質的にはもちろんロシア語とは異なっており、人称に応じた変化はしない。とはいえ、動詞の語尾変化の原則は日本語に特有であるため、ロシア語の動詞変化の演習をする上でも、なんらかの基盤を担い得る。

しかしながら、最大の難関は、名詞変化である。名詞変化は恐らく、日本人学習者にとって、基礎となる文法知識の習得が最も難しい要素であり、最も注意を払わなければならない。各名詞変化における5つの格と2つの性、および語尾形式一覧の存在によって、基本文法の学習時期に相当困難な問題が生じる。名詞の変化を形容詞の形態変化と同時に学習するように複雑化してしまうと、益々大きな苦勞を要する。このことから、結局のところ、形容詞と名詞の変化のいくつかを同時に学習するのは避けるべきであることが示唆される。そこで、名詞の全形態変化の学習を終えてから、形容詞の形態変化の学習を取り入れることになる。

したがって、拙著『ロシア語文法と練習』の教科書において、形容詞の演習は2段階に分けられている。はじめに、名詞変化を学習し、その後形容詞変化の学習へと移行する。

基本的に、このような移行をするためには、東・ステパーノワ（東一夫、東多喜子、ステパーノワ 1994）の教科書で行われているように、事前に前置格の変化の学習を入れておくこと非常に有益である。しかし、拙著『ロシア語文法と練習』では、時間上の制約により前置格の学習時間を短縮せざるを得なかった。

男性対格形を学習する際に、修飾語を限定的に用いるのは幾分有効かもしれない。男性対格形の学習において、形容詞の形態は主格形の場合と類似した使い方をするからである。例えば：«Я изучáю ру́сский язы́к.» ‘私はロシア語を勉強しています。’ 名詞変化の学習後、すぐに、形容詞変化の学習における基本軸を作っておく必要がある。この場合には、すべての格変化語尾を集中的に学習すると、名詞・形容詞のすべての語形変化の意義を副次的に理解することにも役立つ上、

名詞の用例を使う事によって、学習してきた箇所を定着させることにも役立つ。

学習者の理解を助けるために、形容詞語尾の一覧表を使うことも不可欠である。このような演習は、学習者が語尾を選ぶときの大きな手助けになる。

形容詞語尾の一覧表

		主	生	与	対	造	前	短
1 б, в, д, з, л, м, н, п, р, с, т, ф	男	- ый (ой)	- ого	- ому	主また生	- ым	- ом	-
	女	- ая	- ой	- ой	- ую	- ой	- ой	- а
	中	- ое	- ого	- ому	- ое	- ым	- ом	- о
	複	- ые	- ых	- ым	主また生	- ыми	- ых	- ы
2 г, к, х	男	- ий (ой)	- ого	- ому	主また生	- им	- ом	-
	女	- ая	- ой	- ой	- ую	- ой	- ой	- а
	中	- ое	- ого	- ому	- ое	- им	- ом	- о
	複	- ие	- их	- им	主また生	- ими	- их	- и
3 ж, ч, ш, щ	男	- ий (- ой)	- его (- ого)	- ему (- ому)	主また生	- им	- ем (- ом)	-
	女	- ая	- ей (- ой)	- ей (- ой)	- ую	- ей (ой)	- ей (- ой)	- а
	中	- ее (- ое)	- его (-ого)	- ему (- ому)	- ее (- ое)	- им	- ем (- ом)	- е (-о)
	複	- ие	- их	- им	主また生	- ими	- их	- и
4 ц	男	- ый	- его	- ему	主また生	- ым	- ем	-
	女	- ая	- ей	- ей	- ую	- ей	- ей	- а
	中	- ее	- его	- ему	- ее	- ым	- ем	- е
	複	- ые	- ых	- ым	主また生	- ыми	- ых	- ы
5 б, в, д, з, л, м, н, п, р, с, т, ф	男	- ий	- его	- ему	主また生	- им	- ем	- ь
	女	- яя	- ей	- ей	- юю	- ей	- ей	- я
	中	- ее	- его	- ему	- ее	- им	- ем	- е
	複	- ие	- их	- им	主また生	- ими	- их	- и
6 третий	男	- ий	- ьего	- ьему	主また生	- ьим	- ьем	
	女	- ья	- ьей	- ьей	- ью	- ьей	- ьей	
	中	- ье	- ьего	- ьему	- ье	- ьим	- ьем	
	複	- ьи	- ьих	- ьим	主また生	- ьими	- ьих	

形容詞語尾の運用に関しては、若干の説明をする必要がある。まずはじめに、形容詞語尾は名詞語尾よりも短く、語尾の変種数も名詞より若干少ない。

したがって、格に関する演習は、下記の「русский язык」‘ロシア語’と「русская литература」‘ロシア文学’の例のように、用例の分析からはじめるべきである。その際学習者は、格の演習もすることになる。

- | | |
|--|--|
| (1) Переведите с русского языка́ | (1) Произведение русской литературы́ |
| (2) Он учёится русскому языку́ | (2) Он учёится литературе́ |
| (3) Я знаю русский язык | (3) Я знаю русскую литературу |
| (4) Я занимаюсь русским языком | (4) Я занимаюсь русской литературой |
| (5) У неё есть книга на русском языке́ | (5) У неё есть книга о русской литературе́ |

解説は、女性形の用例からはじめられそうである。女性形は、男性形よりも、語尾の変種数が極めて少ないからである。

まずは、学習者が形容詞語尾だけ言い当てられるような練習をするために、用例の中で名詞語尾だけを書き示しておくのが良いかもしれない。

У неё есть книга на русск___ языке У неё есть книга о русск___ литературе

名詞語尾と形容詞語尾を同時に導き出すことが必要となる複雑な課題へは、少しずつ進んでいく必要がある。

Я занимаюсь русск___ язык___ Я занимаюсь русск___ литератур___

このような導出をするためには、名詞の性と要求される格を修飾する演習から始め、形容詞に関する演習へ進むのが良い。ここでの演習は、先に検討したように、形容詞と名詞の複数主格形とを一致させる演習と類似している。しかしながら、名詞の複数主格と一致させる場合、形容詞の性は重視されない。その一方、名詞の斜格と一致させる際には、形容詞の性は重要な意味を持ち、どのような場合でも無視することはできない。

белый	дом	(白い建物・主格)
↓	↓	
белого	дома	(白い建物・生格)

このような用例を使った演習は、学習者が中間の文法操作をするために役立つ。例えば、形容詞の男性形に対しては、元になる男性形から女性もしくは中性形へ変換させ、その後は、要求される格変化語尾を導き出すだけである。

белый → белая машина (白い→白い車)
белый → белое облако (白い→白い雲)

複数形の格を用いる場合には、正しい語尾形式を決めるための一貫した文法操作が必要である。用例を使った最初の演習は名詞の数を変化させることから始め、その後、すぐに形容詞の数を変化させるようにする。なぜなら、形容詞も名詞も数において一致し、さらに、それら双方の語は共に、要求される格語尾に応じて変化させる必要があるからである。

белый	машина	(白い) (車)
↓	↓	
белые	машины	
↓	↓	
белых	машин	

練習課題には、ごく限られた数の用例から作ることができる性質形容詞が最も適している。

運用の定着には、形容詞と同様の原則にしたがって変化する順序数詞も使えるだろう。順序数詞を使えば、学習過程において形容詞語尾を復習できると同時に、日常生活で必要となる知識の一部も副次的に身につけることができる。

この他に、短語尾形容詞の指導についても言及しておきたい。短語尾形容詞の指導に関しては、これといった原則はないように思われることを最初に指摘しておくが、主格における形容詞の性・数の説明の後、あるいは、斜格形を学習した後に導入することになる。短語尾形容詞の形態的な側面に関しては、形容詞の主格を学習した直後に取り入れることができるかもしれない。しかしながら、短語尾形容詞は、その機能の位置づけにおいて修飾語とは異なっている。そこで、特に機能的な側面をよく理解してもらうためには、動詞の形態と述語の形態を教えることがさらに必要となる。故に、かなり後の学習段階、つまり、名詞と形容詞の斜格を学習し終わった後の段階で、短語尾形容詞の導入を行う方がはるかに理にかなっていると思われる。

このことは特に、形動詞の短語尾形 («Дом построен. '家が建った' Задание выполнено. '作戦が実行された'») の機能を理解してもらう上で、明らかに理にかなっている。形動詞の短語尾形は、基礎知識を十分に積み重ねた上で、導入される必要がある。

形容詞短語尾形の一覧表

	単数			複数
	男性	女性	中性	各性共通
長語尾形	краси́вый	краси́вая	краси́вое	краси́вые
短語尾形	краси́в	краси́ва	краси́во	краси́вы

※男性形に限り語末に二つ以上子音が連続すると、子音の間に母音 e または o が挿入されます。(нの前に e と кの前に o を入れるケースが多い)

たとえば、свободный (長)- свободен (短)

形容詞の短語尾形の導入もまた、一覧表を基に行うことができるかもしれない。一覧表を使った演習によって、学習者に必要な技能を短時間で習得させることが可能になる。

結論

形容詞（修飾語、'長語尾形'）の演習は、積木で家を組み立てるように、単文における他の成分と論理的につながりがある学習項目を段階的に導入するという指導方針を基にして組み立っている。意味的単位 (смысловых единиц) を増やすためには、文の別の成分や品詞と一緒に形容詞を用いることが必要である。これによって、分割的・段階的に学習内容を導入することを基本とした学習ストラテジーを構築できる。その次は、学習ストラテジーを個々に分割し、1つの項目ごとではなく、いくつかの固まりごと導入するようにするが、このような手法は、初級クラス用の教科書の構成に際してある種の難問を引き起こす。そこで本稿で提案した指導方針、形容詞主格形を斜格と別に学習させるという原則が重要になる。すなわち、形容詞の性と数は名詞の主格形の学習過程で最初に学習し、形容詞の斜格形は、名詞の斜格形を学習した後に学習するべきである。

参考文献：

- 東一夫, 東多喜子, ステパーノワ (1994). 東一夫, 東多喜子, E. ステパーノワ 『標準ロシア語入門』 東京：白水社, 1994.
- 小澤政雄 (1978). 小澤政雄 『ロシア語の入門』 白水社, 1978.
- 佐藤純一 (1974). 佐藤純一 『初歩のロシア語』 昇龍堂, 1974.
- トルストグゾフ (1998). トルストグゾフ セルゲイ 「外国人に対するロシア語教育について—名詞語尾を中心に」 『欧米文化研究』 1998, No.5.
- 秦野一宏, トルストグゾフ (2012). 秦野一宏, トルストグゾフ セルゲイ 『ロシア語文法と練習』 白水社, 2012.
- Милославский (1987). Милославский И.Г. Краткая практическая грамматика русского языка. М.: Русский язык, 1987. С. 15.
- Степанова, Иевлева, Трушина (1977). Степанова Е., Иевлева З., Трушина Л. Русский язык для всех. М.: Русский язык, 1977.

ABSTRACT

The Pedagogic Principles of Teaching Russian Adjectives to Japanese Students

Sergey TOLSTOGUZOV

Part-time Instructor at Hiroshima University

The teaching of Russian adjectives to Japanese students as a second foreign language involves various problems. This study of the pedagogic principles of teaching Russian adjectives is based on the personal experience of the author and a brief review of the main textbooks written in Japanese. The proposed strategy of teaching is mainly based on the two stages when gender and inclinations of adjectives are taught separately.